事例 １３

タイトル：　他の入居者の介助をしてしまうＡさん

Ⅰ．＜事例の状況＞

Ａさんは職員を見ると、「先生、何をしましょう？」と、一日中一人の職員の後を付いて歩く。職員はＡさんに、食堂の掃除や、食事の準備、おしぼり巻きなどを手伝ってもらったりしている。洋裁が得意ということもあり、他の入居者の洋服の修繕等お願いするとしてくれるが、手早くすぐに修繕を終えてしまう。

日中は他の職員もいるため、Ａさんとの関わりは持てるが、夜勤明けの早朝時に、他の入居者の介助をしてしまう。寝ている人を車椅子へ移乗させようとして転倒したり、トイレットペーパーを口の中へ入れたり等Ａさんが関係していると思われる事故が増えてしまっている。

Ⅱ．＜この事例で課題と感じている点＞

他の入居者の介助をしてしまう。夜勤明けの一人の時にどうしたらいいのか。

Ⅲ．＜キーワード＞

寝たきりの方を車椅子へ移乗させてしまう。　立てない方を立たせ歩かせてしまう。　食べられない物を他の人の口の中に入れてしまう。

Ⅳ．＜事例概要＞

【年　　齢】　70 代後半
【性　　別】　女性
【職　　歴】　洋裁
【家族構成】　子供二人
【認知機能】　ＨＤＳ－Ｒ０点
【要介護状態区分】　要介護度３
【認知症高齢者の日常生活自立度】　Ⅳ
【既 往 歴】　なし
【現　　病】　アルツハイマー型認知症
【服 用 薬】　整腸剤（パントシン散・酸化マグネシウム）　精神安定剤（リーゼ錠）
　　アリセプトＤ
【コミュニケーション能力】　「先生」「さあ行きましょう」「帰ります」等自分の想いを訴えることはできるが、つじつまの合わない事の方が多い。
【性格・気質】　せっかち
【Ａ Ｄ Ｌ】　食事（自立）排泄（場所の認識は難しいが場所を伝えれば可能）入浴・着脱（一つずつの行為に声をかける必要はある）
【障害老人自立度】　Ａ１
【生きがい・趣味】　テレビの歌番組を見ることが好き。　洋裁。
【生 活 歴】　農家の二番目の子供として生まれる。家業の農業を手伝いながら洋裁を学ぶ。

３０代で結婚・二児をもうける。子育てをしながら洋裁の仕事についていた時期もある。平成に入って夫死亡。およそ８年程前から道が分からなくなる、火の不始末などの症状が出始め、アルツハイマー型認知症と診断される。自宅での介護が難しくなり、およそ７年前にグループホームへ入居した。帰宅願望等が強く、居室の窓から飛び降りようとしたことがあり、グループホームでの対応が困難となり、その翌年特別養護老人ホームへ入所し現在に至る。
【人間関係】　他の入居者の方との関わりは薄く、職員の後をついて歩いている。
【本人の意向】　何か手伝うことはないか。私にもできる。
【事例の発生場所】特別養護老人ホーム